

サーファーの海岸環境意識に関する一検討

東北工業大学大学院 学生員 ○千葉 透雄
東北工業大学 正 員 高橋 敏彦

1. はじめに

平成 12 年に新海岸法が施行された。新海岸法の一番の改正点は、従来の防護だけの目的に「環境」及び「利用」を追加したことである。しかし、これまで海岸利用者の実態や海岸環境に対する意識についてはあまり把握されていない。通年を通して海を利用した身近なレジャースポーツの代表的なもの 1 つとしてサーフィンが挙げられる。そこで著者らは、港湾、海岸の保全、海岸施設や整備の充実の一助となる基礎データの蒐集を目的として、サーファーによる海岸利用と海岸環境に関するアンケート調査を実施し、その結果を報告¹⁾してきた。本研究は、アンケート調査の主に海岸環境に関する項目について、更に詳細に解析した結果を示したものである。

2. 調査場所及び方法

調査対象のサーフスポットは、図-1 に示した、菖蒲田(菖蒲田海岸)、仙台南港(仙台南港南防波堤南側)、荒浜河口(阿武隈川河口右岸側)と荒浜プール(阿武隈川河口右岸側約 200~400m 南でプールの裏)の 4 地点とした。いずれも、仙台市近郊ではサーファーに知られているサーフスポットである。調査方法は、前述の 4 地点におけるサーファーへのアンケート調査である。



図-1 仙台市近郊の surf spot

3. 調査結果及び考察

3-1. アンケート調査実施期間及び集計人数

アンケート調査は、仙台南港において平成 17 年 8 月 6 日~24 日までの 7 日間、他の 3 地点では、8 月 20 日~24 日までの 3 日間である。回収アンケート用紙は、仙台南港 291 人、菖蒲田 43 人、荒浜プールと河口の 43 人の合計 377 人分である。

3-2. 海岸環境への興味の有無とサーフィン歴および主サーフスポット

図-2(a) (b) は、海岸環境への興味の有無とサーフィン歴および主サーフスポット(複数回答可)に対する結果をクロス集計し、サーフィン歴および主サーフスポットの各項目を 100%として表した図である。図-2(a)より、海岸環境への興味がある人はサーフィン歴 2~3 年の 56.7%が最も低く、それ以外ではサーフィン歴が長くなるにつれて「ある」の割合は高くなる。一方「ない」の割合は、サーフィン歴 1 年未満が 7.5%、2~3 年が 11.4%であるが、4 年以上は 1.6~2.0%と低くなっており、サーフィン歴が長くなるにつれて海岸環境に対する意識が高くなっているものと思われる。図-2(b)より、回答数が異なるが、海岸環境への興味が「ある」と回答した割合の高い順に県外>仙台南港>荒浜>関上>県内>菖蒲田となっている。

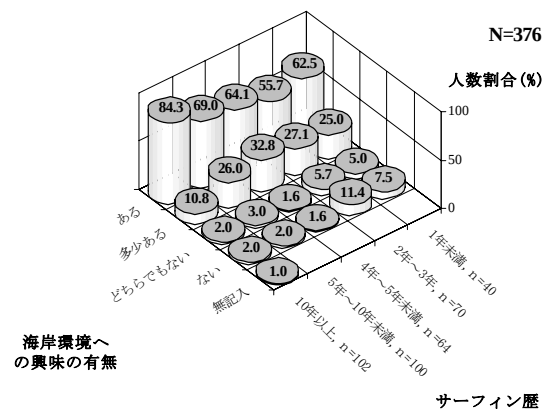


図-2(a) 海岸環境への興味の有無とサーフィン歴

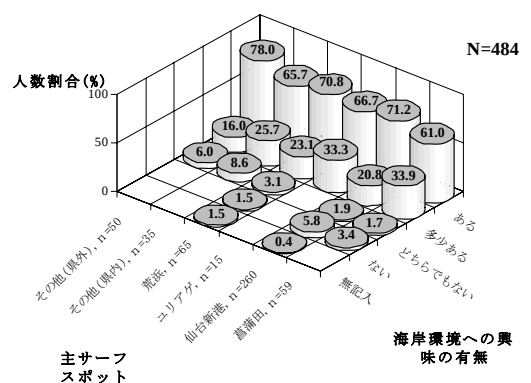


図-2(b) 海岸環境への興味の有無と主サーフスポット

る。関上では、「ある」「多少ある」で 100%となっており、環境に対する意識が比較的高いサーファーが全体を占めている。海岸環境への興味が「ある」と「多少ある」も含めると、サーファーの 9 割以上は海岸環境への興味を持っている結果となっている。

3-3. 海岸環境の変化内容とサーフィン歴および主サーフスポット

図-3(a)(b)は、「海岸の環境はここ数年で変化したと感 じますか?(複数回答可)」とサーフィン歴および主サーフスポット(複数回答可)に対する結果をクロス集計し、サーフィン歴および主サーフスポットの各項目を 100%として表した図である。図-3(a)より、4 年未満の比較的サーフィン歴の浅いサーファーは「ゴミが増えた」を、4 年以上のサーファーは「人が増えた」を第 1 に挙げている。「人およびゴミが増えた」と感じているサーファーは、サーフィン歴に関わらず本調査の約 60%に達している。また、サーフィン歴 1 年未満及び 5 年以上のサーファーは、それぞれ「海水が汚くなった」、「波が悪くなった」を上位に挙げている。図-3(b)より、「人が増えた」「ゴミが増えた」が各サーフスポットとも上位 1,2 となっているが、特に県外に主サーフスポットを持っているサーファーは、「人が増えた」と感じている割合が約 41%とかなり高い値を示している。菖蒲田、関上、その他(県内)の主サーフスポットを持っているサーファーは、次に「海水が汚くなった」、それ以外の主サーフスポットのサーファーは「波が悪くなった」と感じている。

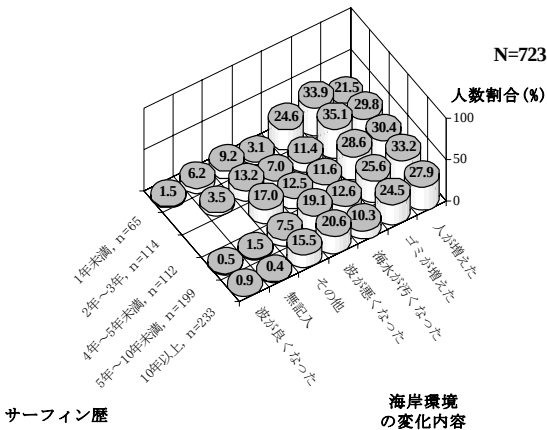


図-3(a) 海岸環境の変化内容とサーフィン歴

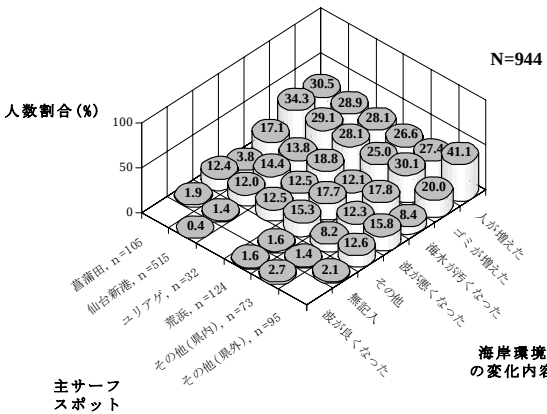


図-3(b) 海岸環境の変化内容と主サーフスポット

3-4. 海岸環境への興味の有無と海岸環境の変化内容

図-4 は、海岸環境への興味の有無と海岸環境の変化内容(複数回答可)をクロス集計し、海岸環境への興味の有無の各項目を 100%として表したものである。図より、海岸環境への興味の有無において「ない」から「ある」に向かうにつれて、「ゴミが増えた」、「海水が汚くなった」と回答する割合が増加しており、環境への意識の高さがそのまま結果として表れている。一方、海岸環境への興味が「ない」、「どちらでもない」と回答したサーファーは、「人が増えた」と回答した割合が高くなっている。

4. おわりに

海岸環境への興味が「ある」と「多少ある」も含めると、サーファーの 9 割以上は海岸環境への興味を持っている結果となっている。また、サーファーの海岸環境に対する意識は、サーフィン歴が長くなるにつれて海岸環境に対する意識が高くなる傾向がある。海岸環境の変化内容としては、4 年未満の比較的サーフィン歴の浅いサーファーは「ゴミが増えた」を、4 年以上のサーファーは「人が増えた」を第 1 に挙げている。

<参考文献>

1) 千葉透雄, 高橋敏彦:サーファーの海岸環境に関する意識調査土木学会第 61 回年次学術講演会講演概要集, pp.405-406,2006

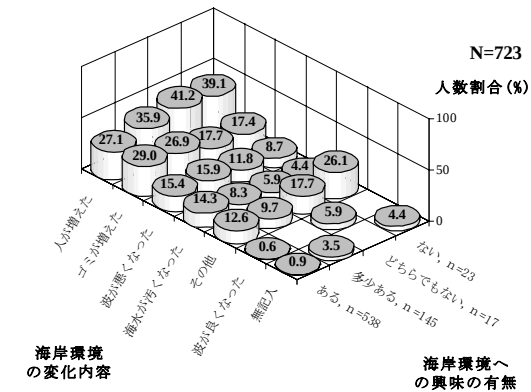


図-4 海岸環境への興味の有無と海岸環境の変化内容